

議事録

名 称	高知カツオ県民会議 カツオ消費・漁業分科会（第16回）		
日 時	2020年2月26日（水）14:00～15:50	場 所	サニーマート 本社会議室
資 料	議題&出席者リスト、資料		
出席者（敬称略）11名			
（サニーマート）中村、（高知かつお漁業協同組合）中田、松田、（明神丸）明神、（新生丸）松下、（旭食品）阪口、（土佐魚類）森國、森國（正）、新川、（全漁信基協）佐治、（事務局）眞鍋			
議題および意見 全議題において要点のみ記載			
前回からの活動について共有			
<ul style="list-style-type: none">10/26 城博イベントを実施について報告。消費漁業分科会からも応援。一本釣り体験を行った。アーケード内にスタンプラリーから高知城歴史博物館北側のガラガラ抽選会場に家族連れなどが多く来られ、その横で開催していた「一本釣り体験」に子供さんや親世代などが気軽に参加してくれ、「一本釣り」を知ってもらうことができた。今、カツオが獲れなくなるかもしれない大変さを伝えることは必要なことだが、もっと気軽に知ってもらうことも必要と感じる。 ⇒関連し、土佐清水市の小学校で上杉氏を中心に一本釣り体験などのカツオ授業を継続していることの新聞記事を紹介。カツオを切る・焼く・食べる以外にも一本釣りの体験や漁師の話を聞いてもらうことを行っている。 ⇒上杉氏はカツオの一本釣りを広く知ってもらうための映像化を進めており、カツオ県民会議とも連携したいとのことで、改めて映像確認などの機会があればお願いしたいとのことで聞いている。11/23 消費漁業分科会が担当した合同分科会について報告。味の素様の協力で「だし・うまみの秘密」という小学生対象の出前授業を行った。各準備の上で当日を臨んだが、参加者が少なく残念だった。 ⇒合同分科会は計6回行われた。企画立案は各分科会が行ったが、集客についても各分科会が主体では難しかった。 ⇒各会ともに共通して来場者は関係者ばかりだった。勉強会や講演といったイベントでは一般の方の関心が高まらない。カツオ県民会議が何をしているのかは明確に伝わっていない。一本釣り体験のような分かりやすさ、気軽さも時には必要だと感じる。 ⇒関心を高めるためには、各分科会任せでなく、カツオ県民会議として動くべきであり、そのためには分科会同士がもっと連携していかねばこの先の活動は持続可能が難しい。前年は水揚げ量も水揚げ高が最低だったとの新聞記事に関連し情報交換を行った。 ⇒アニサキス食中毒以降、生カツオが大きく需要減で値段もつかない。ビン長の漁獲が少なかったも影響した。 ⇒近海は今年の漁が始まっているがさらに状況がよくない。九州に集まって少ない漁が続く、エサも不足している。 ⇒沿岸はまずまず、脂ののったものも揚がっていた。カツオスティックがプロテイン代わりに注目されている新聞記事、土佐あかうしが独自基準作りを検討している新聞記事に関連し、カツオの価値をどうやって作っていくかということを中心に情報交換を行った。 ⇒カツオにも美味しさを科学的に証明する、効能を明確にするなど単に美味しいということ以外の基準や価値づくりが必要なのではないか。獲れなくなるだけではなく、販売に繋がるような価値（疲労回復などの効能）を明確にだすべき。 ⇒アニサキス以降、生の需要減は止まられない。やがて主流になることも見越し、冷凍で安定的に供給する道もある。 ⇒トレサビや鮮度保証なども選んでいく基準になっていくだろう。「高知」産をブランドにしたらいのだが、実際には水揚げの場所で産地が決まり、獲れた場所ではないというのがルールであり、仮に漁船で獲れた場所、日を管理して水揚げしたとしても、それを買う小売店は品質などで金額を変えてくるということもないため、今のやり方ではそうならない。仕組みを大きく変えることができるかどうかということになり、個店や個人だけでは解消できない。			
幹事会に関する報告			
下記の内容が主なテーマとして協議、検討、決定されている			
<ul style="list-style-type: none">各分科会の動きとしては停滞ぎみ。シンポジウムに向けた準備を情報発信分科会が担っている。			

- ・ シンポジウムは3/28（土）予定。国際一本釣り基金のクロフォード氏、フードレガシー花岡氏に参加頂く予定。平日のイベントとはもう少し色の違いも出そうとしており、関心が高まっていくことが期待できる。
ハネルディスカッションには漁業関係者から、声を大にして今の漁業の状況を伝えて欲しいと県民会議より依頼があった。
⇒婦人部などの女性おかみさんの声を活かしてもらえると、漁師とは違った説得感が出ていいのではないかとの意見あり。
⇒3月のシンポジウムについては延期（3/2 幹事会にて決定）

サステナビリティ分科会の発足への情報交換

今回の幹事会での検討事項でもある分科会の再構築に向けた動きが進む中で情報交換を行った。

- ・ 各分科会が少しずつ重なった活動を4つに分けて行っている部分もあり、時間やエネルギーに無駄もある。非効率的。
- ・ 参加してくれる人がいつも同じで負担に偏りも出ている。手弁当の会議なので無理も言えず、責任が発生しないため、議論も深まらず、実行力がない。この閉塞感に風穴を空ける意味で再構築は必要だ。
- ・ ゴールが見えていないため各活動の方向が揃っていない。
- ・ 資源を守る、漁業を守る、世界との調和を行う、地球を守る、貧富をなくすといったSDGsとしての思考は分かる。一方でこれまでの活動では関係者の理解が深まったが、肝心の消費者には危機感が届かず、関心も当初より薄れた。ガチガチに固く発信することも必要だが、まじめすぎず、面白さや分かりやすさなど間口を広げることも考えるべき。

以上

次回 候補 全体の動きに合わせる部分があるため流動的ではあるものの一旦のところは

- ① 4/22（水）14時～ ②4/27（月）14時～ ③4/28（金）14時～で検討したいため、改めて問い合わせする